

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月3日

**【評価実施概要】**

事業所番号	1272100221
法人名	社会福祉法人 旭悠会
事業所名	グループホーム メタセ
所在地	〒275-0005 千葉県習志野市新栄1-10-2 ( 電話 )047-476-5122

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年12月3日	評価確定日	平成21年2月27日

【情報提供票より】(20年11月18日事業所記入)

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.3 人

**(2) 建物概要**

建物構造	鉄骨平屋造り		
	1 階建ての	1階	~ 1階部分

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	65,000円(食費・光熱費・共益費)
敷金	無	有りの場合償却の有無	有
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 300,000 円)		
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり(生活費に含まれます)		

**(4) 利用者の概要(20年11月18日事業所記入)**

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	最成病院
---------	------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

グループホームメタセは特別養護老人ホーム、ケアハウス、居宅介護支援などの複合施設の敷地内にあるホームである。今年度9名の入居者が生活できる新設ホームとなり、入居者と職員が安全で安心の生活を築き上げている。医療との連携や防災面での敷地内の他の施設との協力体制が構築され、また看護師などの専門職の人員体制が充実しているため安心して暮らせるホームである。入居者一人ひとりが食事の用意など自分の役割があり、職員の個性とも相まって賑やかで生活感溢れる雰囲気のあるホームである。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は職員には読んでもらうようにしたが、評価項目の意味の理解は職員によって差が見られる。自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組むまでには至っていない。今後は、外部評価で取り上げられた改善項目に取り組むことで、職員同士の意思疎通を促し、他部門との交流も活発になり、相乗効果が期待できると思われる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者が行なった。今後は、改善項目に明確な優先順位をつけ、会議で具体的に話し合い、改善に取り組む必要があると思われる。外部評価を問題の本質を見極める手段として活用し、具体的な解決活動に活かすことが望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、主に行事やホームの状況報告などを行っている。ホームが目指している運営推進会議のあり方を職員と共に考え、年間計画を立て、会議の目的やテーマを参加メンバーに事前に伝えることで参加意欲を高め、運営推進会議の効果を期待したいと考えている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の訪問時には声かけをし、話し易い雰囲気作りをしている。出された意見や要望は直ぐに検討し、できる限りホームの運営に反映させるように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>社会福祉法人旭悠会として地域の行事には積極的に参加し、施設を地域に開放している。グループホームとしては、実習小学校の児童会との交流を始めた。散歩の際は地域の人々に挨拶などをして交流を深めている。今後は自治会や老人会に加入し、地域交流を更に深めていきたいと考えている。</p>

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のかかわりを大切にしたい理念を作り上げ、ホームページ等でも紹介している。理念は、入居者一人ひとりの豊かな人生経験と尊厳を重視する、入居者のプライバシーを尊重し、規制のない自由な生活を営む、入居者の能力を活かした役割分担により、充実した生活の実現、家庭的な雰囲気と自立した生活を守る支援体制を整える、の4つである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員と共有するために会議等で再確認している。しかし、その理念が常にケアの実践に活かされているとはいえない。		職員が理念への理解と共感を持ち、日々の生活のなかで、理念を活かしたケアが行なわれることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社会福祉法人として地域の行事には積極的に参加し、施設を地域に開放している。グループホームとしては、実籾小学校の児童会との交流を始めた。また、近隣への散歩では地域の人々と挨拶などで交流を深めている。今後は、自治会や老人会にも加入し、地域交流を更に深めたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が行った。前年度の評価結果は読むよう伝えられているが、評価項目の意味の理解は職員によって差が見られる。自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かした具体的な取り組みまでには至っていない。		改善項目は会議で具体的に話し合い、優先順位をつけて取り組む必要があると思われる。その活動が職員同士の意思疎通を促し、地域交流や法人内交流も活発にするなど相乗効果が期待できる。今後は、問題の本質を見極める手段として、外部評価を活用し具体的な解決に活かすことが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、主に行事やホームの状況報告などを行っている。ホームが目指している運営推進会議のあり方を職員と共に考え、年間計画を立て、全体像や会議の目的やテーマを参加メンバーに事前に伝えることで参加意欲を高め、運営推進会議の効果を期待したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の介護サービス向上連絡会に年4回程度参加し、施設管理者を中心に市町村担当者との交流を深めている。今後は行政との意見交換等、さらに市町村との連携を深め、地域にあったサービスの質を高めたい意向がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、家族にホームでの暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動などを知らせている。また、訪問時には入居者の状況や日々気がついたこと等を伝えている。ホーム便りのメタセ新聞には外出、行事での入居者の写真も載せられている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には声かけをし、話し易い雰囲気を作るようにしている。出された意見や要望は直ぐに検討し、できる限りホームの運営に反映させるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度4月より施設敷地内に9名が入居できるホームが新設され、5名の新入居者と管理者を含め4名の職員が配属された。居室が変わったこともあり、入居者へのダメージを最小限に抑えるための配慮に努めたが、職員の異動で影響があったと思われる。		法人内での異動が、職員の意識や意欲に影響を与えていると思われる。入居者本位のサービスを提供するためにも、職員の意見を尊重した組織運営や、働きやすい環境作りが必要と思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成は法人全体として行なわれている。研修計画は法人で策定し、ホームでは研修内容に応じて、必要と思われる職員に声をかけ参加してもらうようにしている。内部及び外部研修に参加した職員は、報告書を提出し、全職員と共有できるようにしている。しかし、管理者や職員一人ひとりの段階に応じた人材育成ができていない。		法人全体として行なわれる研修制度は優れている。しかし、日々の生活の中で学べる仕組みがない。指導する立場にある職員が、現場でのトレーニングを実施すると更に効果が上がると思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の介護サービス向上連絡会に年4回程度参加しているが、同業者との交流はほとんどない。		管理者及び職員はそれぞれの分野で、同業者との交流を計画的に進めることが必要と思われる。同業者との交流でホームの良いところ悪いところを再確認し、職員の長所を伸ばし、入居者本位のサービスを提供することが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者が安心して馴染みながらサービスを利用できるように、見学やお茶を飲みに来てもらっている。また、家族、関係者などの情報をもとに、入居者が安心感が持てるような対応を心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の用意や裁縫、園芸など入居者ができることはしてもらい、職員も教わりながら勉強をしている。また、職員は入居者の得意なことや、好きなことについての話を聴く姿勢を、常に意識し対応するよう心掛け、その関係や経過をお互いに楽しんでいる。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の日々の会話、回想話、経験談から生活歴、生活環境を把握している。意思疎通が困難な人についての情報収集は、家族から聞き、個人記録に記入してスタッフ全員が情報を共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>1ヶ月ごとのケースカンファレンスは管理者、職員ときには家族も参加して行われ、介護計画について話し合われている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月毎に見直すほか、家族からの要請や状態変化の場合はその都度見直し、介護計画書を作成しスタッフ全員で共有している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
尽き					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊は基本的に家族が送迎しているが、要望により実費で送迎サービスをしている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望する医療機関の受診支援を行っている。また、不定期であるが協力医療機関の歯科医の往診もある。受診結果は家族と情報を共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの実績はなく、重度化や終末期ケアについても、家族との同意書は作成していない。		主治医、家族、スタッフ全員で検討し、早い時期に今後の方針について話し合い、関係者全員で共有すること必要と思われる。
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を尊重し、丁寧に接している。また、個人記録の取扱いにも注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしてのスケジュールがあるが、買い物や散歩など、入居者の日々の出来ることを出来る限り支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2度は入居者と共に献立を考えている。また、月に2度、近くのファミリーレストランで外食を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂も含めて、出来るかぎり入居者の希望に沿うよう支援している。入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレーなどによって一人ひとりに合った入浴支援を行っている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	残存機能を維持させるため、自分の事は自分でやってもらっている。自発的に役割を分担し、食材の買出しや調理、味付け、盛付けなど、一連の食事作りを入居者が交代で行っており、それが楽しみごとにもなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、入居者2名に対し職員1名が付き添い近所への散歩に出かけている。また、時には浅草や京成バラ園、房総の村など遠出のドライブを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は鍵をかけずに、センサーチャイムで対応している。避難口は3重に施錠し、簡単にはドアは開けられない。		避難口については、非常時にすぐに出られるように、鍵をかけない工夫が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、夜間の災害を想定した訓練を年3回行っている。居室には事務所で管理する煙感知器が設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーは施設の栄養士が計算している。また、摂取量は職員がチェックし記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置も考えて、使いやすい、居心地の良い空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたテレビ、時計、タンス、家族の写真などが飾られ、安心して過ごせる部屋になっている。仏壇や位牌もあるがローソク、線香の点火は職員が行っている。		